

Free Style リブレ使用患者の血糖コントロールの実態

◎杉山 大輔¹⁾、野々山 真由¹⁾、永田 篤志¹⁾、舟橋 恵二¹⁾
JA 愛知厚生連 安城更生病院¹⁾

【はじめに】現在糖尿病治療の現場では血糖モニタリングシステムとして様々な機器が使用されている。当院では2017年11月よりFree Style リブレ(以下リブレ)を導入し、診療支援に役立てている。今回リブレ使用患者の血糖コントロールの実態を後方視的に検討した。

【対象および方法】対象は当院の糖尿病・内分泌内科を受診し、1年間継続してリブレデータの得られた患者119名(1型80名、2型39名)。2023年の1年間のデータからTime in range(以下TIR: グルコース値70~180mg/dL) \geq 70%に対するスキャン回数のカットオフ値を算出し、年間平均スキャン回数がカットオフ値以上をA群、カットオフ値未満をB群として、両群をそれぞれ1型(1-A群、1-B群)、2型(2-A群、2-B群)に分けて、リブレから得られる各指標を比較した。

【結果】全119例の1年間のリブレデータから得られる各指標は、平均グルコース値: 179.3mg/dL、変動: 39.6%、TIR: 53.9%、平均スキャン回数: 7.2回。TIR \geq 70%に対するスキャン回数のカットオフ値は12.5回/日であり、TIRと

スキャン回数の相関係数は0.35(1型0.42、2型0.25)であった。1-A群、1-B群、2-A群、2-B群それぞれの1年間の平均グルコース値・変動148.5mg/dL・36.9%、181.6mg/dL・43.0%、167.9mg/dL・33.8%、190.5mg/dL・35.2%であった。

【考察】今回の結果より1型・2型ともにB群ではA群に比し年間を通してコントロール不良であり、目標血糖を達成するためには1日12回程度のスキャンが推奨される可能性が示された。しかし2型患者ではTIRとスキャン回数の相関が弱く、A群-B群間の平均グルコース値や変動の差が1型よりも小さかったことから、1型と2型では療養指導において異なったアプローチが必要であると考えられる。今後リブレ2に切り替わっていく中で、その効力を最大限活用する療養指導を模索する必要がある。

【謝辞】本研究の遂行にあたり多大なるご指導を賜りました当院の糖尿病・内分泌内科、水谷直広先生に深謝いたします。(連絡先: 0566-75-2111)